

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520035

研究課題名(和文) 病の総合的研究を媒介とした哲学・倫理学の再検討と再構成

研究課題名(英文) Revision and Reconstruction of Philosophy and Ethics by Synthetic Study of Disease

研究代表者

小泉 義之 (KOIZUMI, Yoshiyuki)

立命館大学・先端総合学術研究科・教授

研究者番号：10225352

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円、(間接経費) 1,080,000円

研究成果の概要(和文)：病の二つの概念、すなわち、日常語としての病いと医療対象としての疾病が交錯する場面に着目しながら、そこで生ずる問題について、理論的・倫理的に研究した。その際には、その観点から、病に言及する主要な哲学・倫理学の文献を再検討して幾つかの論文を発表した。また、病をめぐる制度、とくに介護保険制度成立の過程で問題化された高齢者の病や、精神衛生・精神保健の法制度の下での精神や心の病を事例として、社会科学の研究も参照しながら幾つかの論文を発表した。そして、以上の研究成果を、複数の単行本として社会に向けて発表した。

研究成果の概要(英文)：Paying attention to the relation between illness as ordinary term and disease as professional term, I have studied the problems theoretically and ethically, which arise in the field where illness and disease are interwoven and taken as various issues. From this viewpoint, I have reexamined some philosophical and ethical texts which treated illness or disease, and have published some papers. As case studies, I have studied institutions of illness and disease, especially public nursing care insurance, mental hygiene and mental health, and have published some papers. Reexamining the above results of research, I published some books on philosophy and ethics of illness.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：生命と病の理論 生命と病の倫理 疾病の医療制度 医療と福祉国家・福祉社会

1. 研究開始当初の背景

(1) 20世紀の哲学においては生と死については大いに論じられたが、病についてはさほど論じられてこなかった。病について論じられる場合でも、念頭に置かれていたのは、主として精神や心の病であり、その場合でも特定の精神疾患のことだけが想定されていた。また、身体や肉体の病について論じられる数少ない場合にも、病の症候や徴候だけに関心が払われ、病を生と死の葛藤の現われとしてだけ捉え、病を固有の現象として捉えることがないのが通例であった。

(2) これに対し、20世紀後半の倫理学においては、生命倫理や医療倫理などの応用という形式をとって、身体や肉体の病について大いに論じられてきたが、その際の病の認識は医学的な疾病概念に準拠することが多く、そのため、病そのものの認識から倫理を引き出すという倫理学に固有であるはずの道が辿られることが殆んどなかった。

(3) このような哲学と倫理学の状況に比して、他の諸学問、とりわけ医療社会学や社会福祉学や臨床心理学は、医学的な疾病認識を前提としながらも、病をめぐる社会的・福祉的・心理的な側面について盛んに研究を進めてきた。また、20世紀後半には、医療・精神保健・公衆衛生などの諸制度や諸機構が新たな形で発展してきており、それらについての社会科学的な研究も地道に進められてきた。

(4) したがって、哲学と倫理学は、急速に進展している生命科学や医科学の先端的な達成を理論的に吟味しながら、上記の他の諸学問の達成からあらためて出発することが求められている。その際に、病に焦点をあてて哲学と倫理学の過去の達成を活かしながら、病の総合的な研究を始めることが重要になる。

2. 研究の目的

(1) 哲学と倫理学は、伝統的に生老病死をその固有のテーマとしていた。哲学と倫理学は何よりも生老病死をめぐる知識と知恵をもたらす学として位置づけられていた。このような哲学と倫理学の伝統的な位置と役割を、現代の諸学問や諸言説のただなかで、それに相応しい形で示していくことが目的となる。

(2) 本研究では、特に病に焦点を絞って、病の哲学的・倫理的な認識を提示することを目指す。そして、そこから現代に相応しい知識と知恵を示していくための基礎となる研究成果を提示することを目指す。

(3) 本研究では、現代の哲学と倫理学が病についての固有の認識を形成していない状況を考慮し、他の諸学問の達成を哲学的・倫理的に解釈して提示することを基本的な目的とする。

3. 研究の方法

(1) 幾つかの病に限定して、それをめぐる諸学問・諸言説の文献を通覧し精選して哲学的・倫理的に読解を進める。その際に、主として20世紀の哲学・倫理学の文献の中から、現代に相応しい形で使用できるものを精選し提示していく。

(2) 本研究は、したがって、諸学問の文献研究、加えて、病をめぐる諸言説の史資料の調査研究を進める。

(3) 本研究に関連する学会や研究会に参加して情報交換と資料収集を行う。

(4) 研究成果をその都度、単行本と学術論文として刊行し、研究者コミュニティでの検討に付していく。

4. 研究成果

(1) 本研究の研究成果を多くの学術論文として刊行してきた。その内容は大きく六つに分類することができる。第一に、医療制度と保険制度における病の位置の分析を通して、哲学・倫理学の文献を使用しながら、現代の病認識を批判的に検討するものである。主要なものとして、発表論文の、[〇〇](#)、[〇〇](#)がある。第二に、現代の社会福祉制度と政治経済の下での病人の地位と現状に分析を加えながら、現代の病認識を批判的に検討するものである。ここでは、現代の哲学・倫理学の傾向も批判的に検討されている。主要なものとして、発表論文の、[〇〇](#)、[〇〇](#)がある。第三に、病の言説・表象文化を検討するものである。主要なものとして、[〇〇](#)、[〇〇](#)がある。第四に、現在の生命倫理や医療倫理の論点に関連して論じたものである。主要なものとして、[〇〇](#)がある。以上は主として cancer / tumor を念頭に置いているものであるが、第五に、精神と心の病について主題的に論じたものである、主要なものとして、[〇〇](#)がある。第六に、本研究を活かした狭義の哲学・倫理学の専門的な学術論文である。主要なものとして、[〇〇](#)、[〇〇](#)、[〇〇](#)がある。

(2) 本研究の研究成果を多くの図書として刊行してきた。前項の分類を繰り返すなら、第一・第二のものとして、[〇〇](#)、[〇〇](#)、[〇〇](#)、[〇〇](#)、第三のものとして [〇〇](#) と [〇〇](#) の一部、第四のものとして、[〇〇](#)、第五のものとして、[〇〇](#)、第六のものとして、[〇〇](#)、[〇〇](#)、[〇〇](#)がある。これらのうち、[〇〇](#) は本研究に基づき古代からの主要な哲学・倫理学の主要文献を再解釈して提示したものであり、[〇〇](#) は同じく現代の哲学・倫理学の主要文献を批判的に読解して提示したものである。

(3) 本研究を進める過程での予備的な研究ノートと資料の一部については、下記ホームページに掲載して公開した。

(4) 当初の研究計画及び中間報告において予定していた生命科学・医科学の疾病認識の理論的研究については、その研究ノートなどを下記ホームページに掲載して公開した。今後、論文や図書の形で刊行を続けていく。また、精神と心の病については、本研究終了

後直ちに図書を刊行する予定になっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 22 件)

小泉 義之、出来事(事象)としての人生 ドゥルーズ『意味の論理学』における、哲学雑誌、査読無、128 巻 800 号、2013、56-74

小泉 義之、社会(科)学の啓蒙的な論調について、福祉社会学研究、査読無、10 号、2013、82-99

小泉 義之、モラリズムの蔓延、現代思想、査読無、41 巻 7 号、2013、204-214

小泉 義之、戦時 戦後体制を貫くものハイデガー(「ヒューマニズム書簡」と「ブレイメン講演」)の場合、Heidegger Forum、査読無、7 巻、2013、40-52

小泉 義之、デッドエンド、デッドタイム 一九七八年以來の現代思想における、ユリイカ、査読無、45 巻 2 号、2013、197-203

小泉 義之、精神と心理の統治、思想、査読無、1066 号、2013、58-76

小泉 義之、包摂による統治 障害カテゴリーの濫用について、情況・思想理論編、査読無、1 号、2012、76-95

小泉 義之、統治と治安の完成 自己を治める者が他者を治めるように治められる、批評研究、査読無、1 巻、2012、145-164

小泉 義之、心理の主体、皮膚の主体、ユリイカ、査読無、44 巻 9 号、2012、137-145

小泉 義之、死に場所を探して、現代思想、査読無、40 巻 7 号、2012、158-164

小泉 義之、末期の声、あるいは同じ節の替歌、KAWADE 道の手帖 1 巻、査読無、2012、143-148

小泉 義之、経済の起源における債権債務関係の優越的地位 『道徳の系譜』と『通貨論』、現代思想、査読無、40 巻 2 号、2012、210-217

小泉 義之、田辺元のコミュニズム、思想、査読無、1053 号、2011、184-196

小泉 義之、傷の感覚、肉の感覚 その後は、叫ぶ人はもういなくなるだろう。耳に栓をする人もいなくなるだろう。(サルトル) 現代思想、査読無、39 巻 11 号、2011、135-147

小泉 義之、静かな生活 新しいことは起こらないこともありうる(アレント) 現代思想、査読無、39 巻 2 号、2011、138-148

小泉 義之、サイボーグ時代の終焉 錬成陣と構築式を血肉化する生体、ユリイカ、査読無、42 巻 14 号、2010、138-143

小泉 義之、残余から隙間へ ペーシックインカム^①の社会福祉的^②社会防衛、現代思想、査読無、38 巻 8 号、2010、110-118

小泉 義之、思考も身体もままならぬとき ドゥルーズ『シネマ』から、表象、査読無、4 号、153-157 2010

小泉 義之、病苦、そして健康の影 医療福祉的^③理性批判に向けて、現代思想、査読無、38 巻 3 号、2010、82-97.

小泉 義之、人間の消失、動物の消失、現代思想、査読無、37 巻 8 号、2009、73-79.

21 小泉 義之、フーコーのディシプリン 『言葉と物』と『監獄の誕生』における生産と労働、現代思想、査読無、37 巻 7 号、2009、206-218.

22 小泉 義之、余剰と余白の生政治、思想、査読無、1024 号、2009、20-37

〔学会発表〕(計 1 件)

小泉 義之、自然力と労働力、ハイデガー・フォーラム第七回大会(仙台・東北大学)、2012 年 9 月 15 日

〔図書〕(計 12 件)

小泉 義之 他、知泉書館、翻訳・デカルト全書簡集 第二巻、2014、395

小泉 義之 他、洛北出版、体制の歴史 時代の線を引きなおす、2013、603、205 - 262

小泉 義之 他、河出書房新社、債務共和国の終焉 わたしたちはいつから奴隷になったのか、2013、228、1 - 218

小泉 義之 他、工作舎、形而上学の可能性を求めて 山本信の哲学、2012、464

小泉 義之、青土社、生と病の哲学 生存のポリティカルエコノミー、2012、390

小泉 義之 他、作品社、脱原発「異論」、2011、211

小泉 義之 他、ハーベスト社、差異の繫争点、2011、298

小泉 義之 他、丸善出版、生命倫理の基本概念、2011、251

小泉 義之 他、河出書房新社、思想としての 3・11、2011、206

小泉 義之、人文書院、倫理学 ブックガイドシリーズ 基本の 30 冊、2010、199

小泉 義之、人文書院、デカルトの哲学、2009、231

小泉 義之 他、岩波書店、川本隆史他編『岩波講座 哲学 12 性/愛』、2009、305、119 - 136

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.r-gscefs.jp/?p=950>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小泉 義之 (KOIZUMI, Yoshiyuki)

立命館大学・先端総合学術研究科・教授

研究者番号：10225352

(2) 研究分担者 無

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 無

()

研究者番号：